

年 組 名前:

県内「平成の大合併」20年

財政状況なお厳しく

山梨県内で「平成の大合併」が最初に実現した新南都町が誕生してから、3月1日で20年を迎える。2003年を皮切りに各地で合併が進み、県内に64あった市町村数は10年までに27に減少。行政の効率化が進む一方で、施設の統廃合や人口減少で厳しさを増す財政など課題は残る。

平成の大合併は行政の効率化によるコスト削減や財政基盤の強化に向け、国が推進。合併から20年を経た今も課題は多く、構成町村が多い自治体では、旧町村時代に整備した図書館や温泉などの類似施設を複数抱える。各市町は人口減少などにより厳しくなる財政状況を見越して統廃合を進めるが、住民からはサービス低下を懸念して反対意見も根強い。

平成の大合併は、財政優遇措置が盛り込まれた合併特別法（旧法）の期限（2005年3月）を念頭に、各自治体が合併協議を推進。03年に新南都町、南アルプス、富士河口湖の3市町、04年に甲斐、新身延、笛吹、北杜の4市町が誕生した。05年に上野原、新山梨、市川三郷、甲州の4市町が発足。06年2月に中央市が誕生した後、同年3月に上九一色村が甲府市と富士河口湖町に分村合併、小淵沢町が北杜市と合併した。合併特別法（新法）適用後は06年8月に芦川村が笛吹市と合併。10年3月に誕生した富士川町が県内最後の合併となった。

（山本久美子）  
 〓 合併市町村一覧18面、関連記事23面

平成の大合併は行政の効率化によるコスト削減や財政基盤の強化に向け、国が推進。合併から20年を経た今も課題は多く、構成町村が多い自治体では、旧町村時代に整備した図書館や温泉などの類似施設を複数抱える。各市町は人口減少などにより厳しくなる財政状況を見越して統廃合を

(2023年2月28日付 山梨日日新聞1面)

問1

「平成の大合併」で、山梨県内の市町村数は、  
 いくつからいくつ減少し、いくつになりましたか。  
 ..... から ..... 減少し ..... になった

問2

合併により行政の効率化が進みましたが、構成町村が  
 多い自治体では、どのような問題がありますか。  
 .....  
 .....  
 .....

問3

合併の中に、分村合併がありました。どこの村が  
 分村し、どこと合併しましたか。  
 ・分村した村: ..... ・合併した市町: .....